

<奈良の文化財をもっと知る講座2017>

第5回

赤膚焼登り窯の保存と活用～修理の軌跡と釉薬づくり体験～

赤膚山元窯大型窯の修復について

平成30年2月25日（日）

赤膚山元窯大型窯にて

プロジェクト担当者

丸田 勉 （元沖縄県立芸術大学教授）

<修復工事の重要点>

- ① 登録有形文化財指定の登り窯である。
- ② 文化財であるがゆえに公開の義務が課されている。
- ③ 実際に焼成も行って使用する。



修復箇所の確認

修復材料の吟味（使用済みのレンガ・ツク等）



各室に与えられている仕様内容の確認

<各室の修復特徴>

（第3室）

- ① 良質なレンガが使用されている。
- ② 焼成頻度が高く、レンガ保護のために厚めのコーティング剤が塗布されている。
- ③ この室は、公開のため炉閉をしない。



(第4室)

- ① 第3室と同じ時期に修復がなされており、使用されている材料もほとんど同じである。



(第5室)

- ① この窯において第5室と第6室が一番古い部分であり、焼成頻度が高く過度に使用されており、部屋全体がうねっている状態である。



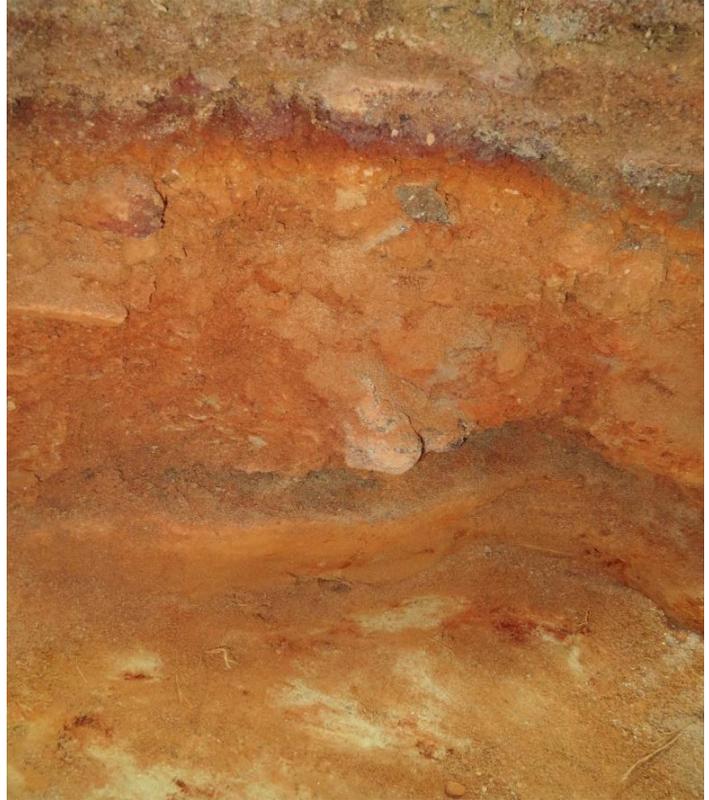
(第6室)

- ① 第5室と同じく、一番古い状態で残っている部分である。
- ② 炉口のアーチが大きくズレており大解体修理を行う。
- ③ 公開のため炉口は閉めない。



(第7室)

- ① 本来第7室が、最後の部屋であったのではなかろうか？
- ② 炉床を修復のために掘削中に、この窯の歴史的な状況を発見した、この窯は少なくとも2回全面的に作り直されている、現在の窯は3代目ではなかろうか？
- ③ 他の部屋に比べて、修理があまりなされていない状況である。
- ④ 狭間穴周辺の壁がかなり歪んでいたため、崩壊防止提を設置した。



(第8室)

- ① この部屋は、いつの時代かに増室されたものであると考える。
- ② 赤レンガを使用しているので天井が一部崩落している。



